

[特集] 令和2年度決算報告

京田辺市の財政状況

問合せ先：財政課（☎ 64-1312）

令和2年度、市民の皆さんから納付された税金などを、どのように使い行政運営を行ったか、また、収支のバランスなどについて、市が取り組んだ主な事業などを示しながら紹介します。※金額は概数です。

第4次総合計画がスタートした令和2年度は、市が目指す都市像「緑豊かで健康な文化田園都市」の実現に向けて、夢と希望のある明るい未来を築くまちづくりを進めました。幼保連携型認定こども園の整備や中学校給食基本計画の策定など、「子育てしやすいまちナンバーワン」を目指した事業や、新型コロナウイルス感染症対策として、市民の暮らしや地域経済を支える事業を取り組みました。

◎歳出
歳出総額は330億円で、昨年度より92億円増加しました。これは、国の特別定額給付金などを活用して新型コロナウイルス感染症対策に取り組んだ結果です。また、国のGIGA（ギガ）スクール構想（※）に基づいて、小・中学校へのタブレット端末の貸与やインター

◎歳入
歳入総額は342億円で、昨年度より97億円増加しました。これは、歳出と同様、新型コロナウイルス感染症対策に伴う特別定額給付金のための国庫支出金の増加によるものです。また、歳入で2番目に大きな割合を占める市税は、人口の増加や大規模物流施設の立地などにより、前年度と比べて1億円増加し114億円となりました。歳入・歳出の差額（12億円）は、基金への積み立てや翌年度事業の財源として利用します。

※GIGA (Global and Innovation Gateway for All) スクール構想
児童生徒に1人1台学習用タブレット端末を配備し、高速大容量の通信ネットワークを一括的に整備することで、教育のICT化を進める取り組み。

「経常収支比率」を家計に例えると、食費や光熱水費などの毎月かかる経費が、給料などの毎月決まった収入に占める割合のことで、この比率が高いほど、旅行や趣味などにお金を回す余裕がなくなります。財政は硬直化している状態です。市は、経常収支比率の改善に向けて、財源確保や既存事業の見直しに取り組んでいます。

「経常収支比率」を家計に例えると

食費や光熱水費などの毎月かかる経費が、給料などの毎月決まった収入に占める割合のことで、この比率が高いほど、旅行や趣味などにお金を回す余裕がなくなります。



財政課職員

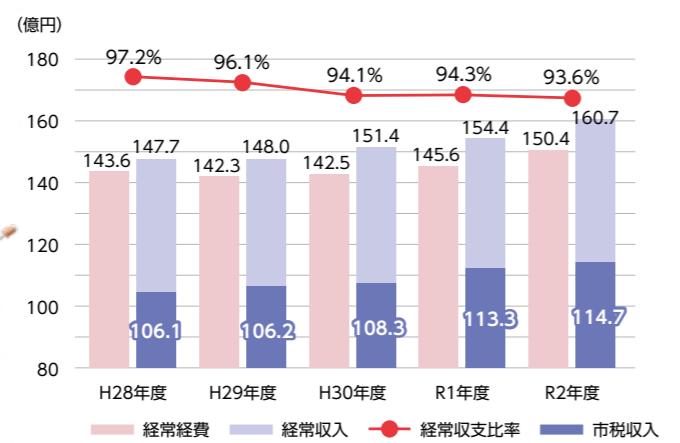
国庫支出金…国から市に対して交付されるもの。市税…市民税・固定資産税・軽自動車税など。地方交付税…国税の一部を原資として、一定の基準により市に交付されるもの。市債…市が資金調達のために国や金融機関から借り入れるもの。府支出金…府から市に対して交付されるもの。地方消費税交付金…消費税の一部が交付されるもの。地方譲与税・交付金など…国や府に納めた税などの一部が交付されるもの。その他…公共施設の使用料や行政サービスに対する分担金など。

監査委員からの意見

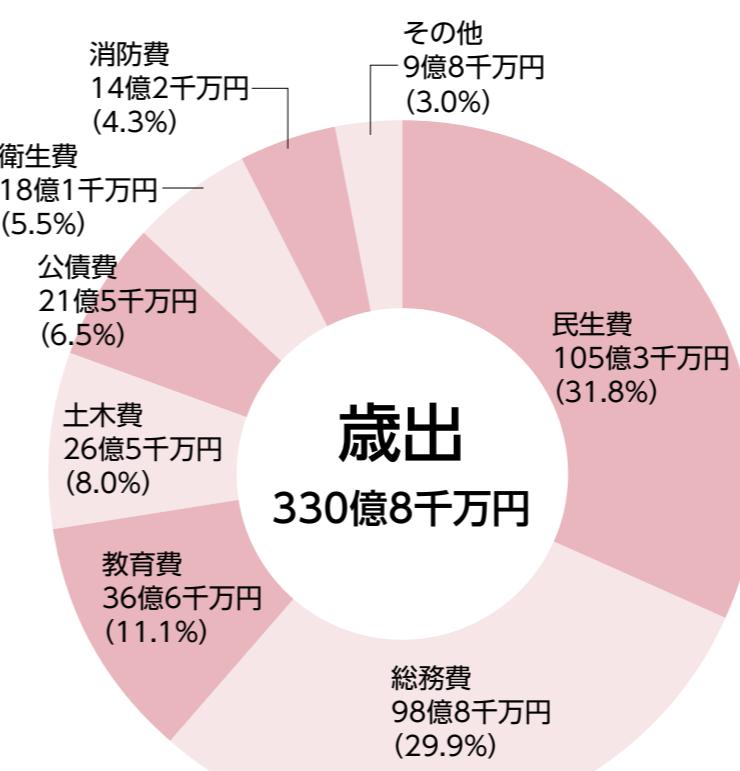
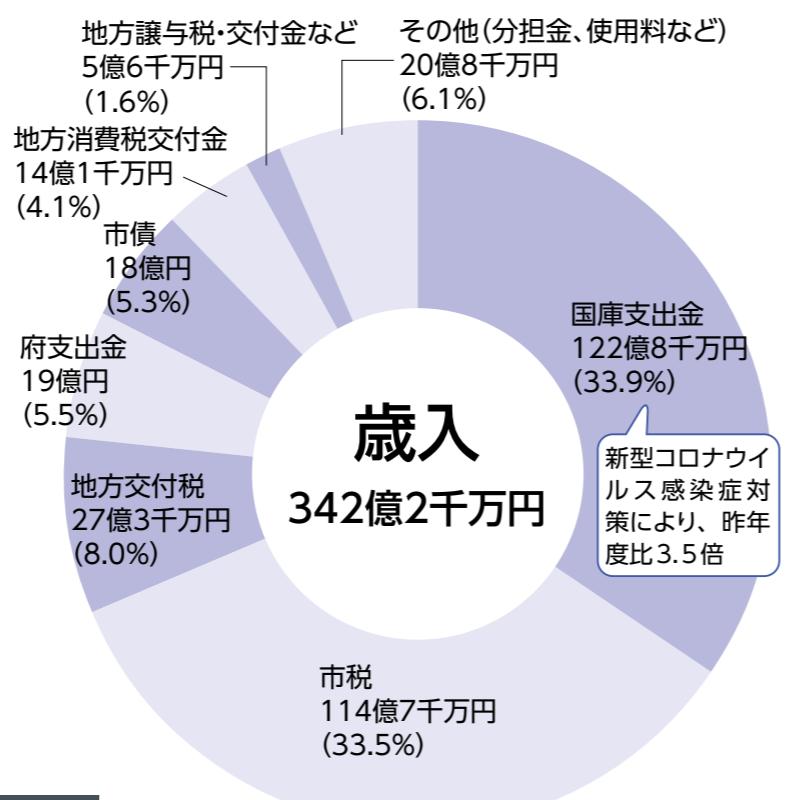
新型コロナウイルス感染症対策を中心に、主要な施策については、おおむね実施されています。また、経常収支比率は、依然として高く非常に厳しい財政状況といえます。今後、人口構造の変化も注視しながら、中長期的に財政見通しを立てるとともに、行財政改革を進め、財源の確保策についても検討する必要があります。

このような中、市民の暮らしを支えていくためには、行政と市民・関係団体が連携して地域課題を解決していく仕組みづくりが大切です。

次ページ以降で取り組んだ事業の一部を紹介します。



自由に使えるお金はどのくらい？ 経常収支比率から分かる財政の硬直化



民生費…子育て支援・高齢者福祉・障がい者福祉・生活保護など。総務費…文化・スポーツ振興、市税賦課徴収など。教育費…小・中学校教育、幼稚園、生涯学習など。土木費…道路・橋・公園などの整備や維持管理など。公債費…国や金融機関から借りた市債の返済。衛生費…健康診査、予防接種、ごみ収集・処理など。消防費…消防・救急・防災など。その他…議会費・労働費・農林水産費・商工費など。

新型コロナ対策に86億円 国・府からの交付金を活用

令和2年度は、国・府の交付金など86億円を活用し、タイムリーに補正予算を組むことで、緊急的・臨時的な新型コロナウイルス感染症対策事業に取り組みました。事業の一部を紹介します。

市民をサポート 約73億円

- すべての市民を対象に10万円を支給（特別定額給付金）
- 子育て世帯・ひとり親世帯に給付金を支給
 - 子育て世帯や低所得のひとり親世帯などに給付金を支給しました。
- 水道基本料金を2カ月分免除
- 休業・失業者へ補助金を支給
 - 休業・失業などにより府社会福祉協議会から借り入れをした人へ、金額の一部補助を行いました。
- 留守家庭児童会・ファミサポの利用料を減額
 - 学校の臨時休校に伴う留守家庭児童会やファミリー・サポート・センターの利用料を減額しました。

●保育料・給食費を返金

緊急事態宣言期間中などで、家庭での保育に協力してくれた保育所や認定こども園に通う園児の保護者に対し、欠席日数に応じて返金を行いました。

●図書の配送サービス

中央図書館の臨時休館中に、予約図書の配送サービスを行いました。



利用者から「本の大切さを改めて感じました」など感謝の手紙がたくさん寄せられました（=写真）。

事業者をサポート 約2億円

- 休業要請への協力事業者などに支援金を支給
 - 休業要請などへの協力事業者や、新型コロナウイルス感染症の拡大によって大きな影響を受けた事業者へ支援金を給付しました。
- プレミアム付き商品券を発行
 - 市内の消費拡大による地域産業活性化を図るため、プレミアム付き商品券を発行しました。



1万円で13,000円分の買い物ができるプレミアム付き商品券を発行（令和2年8月）

●農業の担い手に給付金を支給

地域農業の担い手を支援するため給付金を支給しました。また、農業収入減少に備えた保険加入を促進しました。

●バス・タクシー事業者に支援金を支給

交通インフラを担うバス・タクシー事業者へ支援金を給付したほか、利用客の回復に向けて新たな生活様式に基づく乗車方法を啓発する「路線バス無料の日」を行いました。



ウィズコロナ社会に向けて 約10億円

- 市立小・中学校にタブレット端末、無線LANを整備
- キャッシュレス決済サービスを活用したポイント還元事業を実施
- 子どもたちの感染防止として消毒液・空気清浄機を購入
 - 子育て支援施設、保育所、幼稚園、小・中学校などでマスク・消毒液・空気清浄機を購入しました。
- 避難所で使用するパーテーション（間仕切り）を購入

GIGAスクール構想の実現に向けて、小・中学校に1人1台のタブレット端末を整備。感染防止のため臨時休業とした場合、学習支援として活用する準備を進めています。

令和2年度に行った事業の一部を、第4次総合計画「まちづくりプラン」に基づく6つの施策体系ごとに紹介します。

安全で心安らぐ優しいまちづくり

ガードパイプ設置・路面のカラー化

園児・児童などを交通事故から守るために、交差点にガードパイプを設置したほか、交差点2カ所と路肩約1,400mでドライバーの視認性を高め注意を喚起するためカラー化を行いました。[1,307万円]



広報紙のシリーズ記事で紹介しています。
詳しくは裏表紙をご覧ください。

緑に包まれた美しいまちづくり

水辺の散策路2ルートの整備

四季折々の自然を楽しみながら健康づくりができる水辺の散策路。令和2年度に、「防賀川 市の要ルート」「普賢寺川 同志社ルート」の整備を行ったことで、市内全10ルートが完成しました。[923万円]

いきいき健康で明るいまちづくり

田辺中央体育館をリニューアル

全国小学生ハンドボール大会などのスポーツイベントのほか、成人式などさまざまな目的で利用されている田辺中央体育館に空調機器を整備。また、トイレの洋式化・手すりの設置などバリアフリー化を行いました。[2億6,249万円]



今年8月に開いた全国小学生ハンドボール大会に出場した選手にも好評でした（=写真④）。

子育てしやすく未来を育む文化薫るまちづくり

私立幼保連携認定こども園の整備を支援

今年4月に開園した私立の幼保連携型認定こども園「みんなのき三山木こども園」。学童保育も併設されている同園のオープンに向けて、事業者が行う施設整備などへ支援を行いました。[2億6,589万円]



す。受けて入れていまつた。子11月で1日現地の園児1つ

活力にみちた便利で快適なまちづくり

空き部屋を持つ高齢者と若者の同居4組をマッチング

空き部屋を抱える高齢者の家に大学生などの若者が同居し、互いに助け合って生活するソリデール事業を推進しました。[77万円]



つながって広くPで説明する。会のマッチングで4Rに

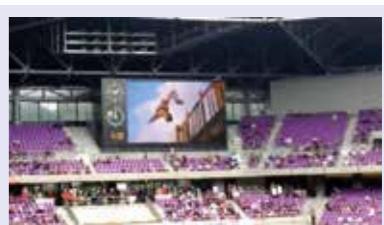
まちづくりプラン推進のために

保育所入所調整をAIでマッチング

事務の正確性・効率性・迅速性を向上させるため、保育所の入所調整事務にAIシステムを導入しました。[525万円]

市プロモーション動画を制作・公開

第4次総合計画とまちの魅力を視覚的に伝えるプロモーション動画を制作。市内の大学・高等学校の学生のアイデアを盛り込むほか、エキストラとして27人の市民に出演してもらいました。市公式ユーチューブ・京都四条南座・サンガスタジアム・関西主要駅などで上映し、市内外の多くの人に本市の魅力をPRしました。[487万円]



ユーチューブの再生回数は自治体動画の成功の目安といわれる1万回を公開から4カ月で突破。写真は今年10月10日に開かれた「京田辺市・木津川市ホームタウンデー」（サンガスタジアム）での上映シーン

